



研修医便り

第4号

令和2年1月6日

発行：公立玉名中央病院
教育・研修部会

～あのひとのいまのきもち～

● Interview

研修医
2年目

本田 宏介
Honda Kosuke

出身地 宮崎県都城市



医師を志した理由は？

小学生の時に見たサリドマイド胎芽病児の映画『典子は、今』がとても心に残りました。医師を目指した直接のきっかけは、事故で手足が片方ずつない友人が小・中学校の同級生に居て、当時義手、義足がとても簡易なものであったため、その友人がみんなから「お人形」と呼ばれていました。それを見て大きくなったらお医者さんになって彼に義手義足を作ってあげる約束をしたんです。彼はその後結婚し、運転もこなし、泳ぎもとても上手です。

高校時代も医学部を受験したのですが、センター試験が難しく数年浪人をしました。ずっと勉強はしていたのですが、センター試験の制度自体が自分に合わない気がして、勉強しても本番でなかなか点数が取れないので、いったん受験から離れてみることにしました。

そこから数年、時は流れましたが、30代前半の時一念発起し、もう一度医学部受験にチャレンジすることを決意しました。数年後36歳の時、今年は調子が良いぞ！と思っていた矢先、2009年9月に自宅が全焼。揃えていた参考書、勉強道具、思い出の品などすべて燃えてしまいました。焼け跡の片づけに追われ、約1か月程度は全く勉強ができる環境ではなかったです。こんなメンタルでは到底試験に受からないと思い、その年の受験を諦めていました。

そんな時家族から『ここで絶対諦めてはいけない！』と言われ、家族の応援もあり勉強を再開。家族6人で借家住まい、自分の部屋もなく悪条件であったにも関わらず、その時のセンター試験で過去最高得点をマークし熊本大学医学部に合格。36歳の年でした。

単身熊本に居住を移した医学部1年の時、家族が住んでいた借家が再度全焼しました。

同時期に『典子は、今』の白井のり子さんと知り合いであった、熊本機能病院会長米満弘之先生の計らいでのり子さんと電話で話す機会がありました。

医学部3年の時、勉強もできてスポーツ万能、人望も厚い高校時代の友人が10年近く前に、白血病のために20代で亡くなったことを知りました。

若い同級生と一緒に勉強に励み、自分は付いていけるのか、卒業できるのか…と心配していると、自分を発奮させる出来事が不思議とあったのです。その後押しもあり、なんとか卒業。2年の国家試験浪人後、晴れて熊本大学病院研修医として働き始めたのが44歳でした。

縁あって公立玉名中央病院で4か月間の研修を経て、2020年4月からは総合診療医として公立玉名中央病院で働くことが決まっています。高齢の新米医師ですので、機敏な反応はできないと思いますが、どうか皆さんあたたかく見守って下さい。



さらなる進化を目指して